

陽だまり

No.6

2024.6月

(隔月発行)

陽だまり 宗教2世支援ニュースレター

「宗教の**信仰**背景の児童**虐待**」
こども家庭庁の調査結果**公表**について
— **当事者の声** —

シリーズ：宗教2世の交流の場②
「宗教2世バー」

INDEX

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| □ 「宗教の信仰背景の児童虐待」 | □ 6/23関西リアルスペース”こっとな”・・・12 |
| こども家庭庁の調査結果公表について・・・2 | □ Infomation・・・13 |
| —当事者の声 ①～⑧・・・3～10 | □ 当事者の声の募集・・・13 |
| □ シリーズ：宗教2世交流の場 ② | □ サポーター募集・・・13 |
| 「宗教2世バー」・・・11 | □ 編集後記・・・13 |

「宗教の信仰背景の児童虐待」

こども家庭庁の調査結果公表について

こども家庭庁の調査結果

こども家庭庁は、保護者による宗教の信仰を背景にした児童虐待の実態を把握するため、2023年10～12月にかけて、全国の児童相談所や学校などを対象に初めて調査を行い、2024年4月26日、その調査結果を公表しました。

[（保護者による宗教の信仰等に起因する児童虐待に関する調査研究 報告書）](#)

（発表元：三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

22年4月から23年9月までの1年半において、宗教の信仰が理由と思われる保護者による虐待事例を聞いたところ、全国の児童相談所のうちおよそ**16%**に当たる**37か所**が虐待事例があったと回答、虐待と判断した事例は合わせて47件に上り、このうち19件について**一時保護**を行ったとされています。

虐待の内容は「**言葉や映像、資料により恐怖をあおる、子どもの自由な意思決定を阻害する**」が30%と最も多く、次いで「**他者の前で宗教を信仰していると宣言することを強制**」「**脅迫や拒否的な態度を示すなどして宗教活動などを強制**」「**宗教活動の参加などによりこどもの養育を著しく怠る**」がいずれも11%でした。

また、救命救急センターが設置されている医療機関対象の調査では、過去3年間（令和2年10月～令和5年9月）で「**医療機関を受診させない**」や「**医師が必要と判断した輸血などの治療行為を行わせない**」などの虐待にあたる事例が少なくとも20件報告されました。

陽だまりによる「当事者の声」募集

陽だまりでは、この調査の実施や結果に対し、「**当事者または関係者として感じたこと**」と題し、陽だまり在籍スタッフおよび陽だまり相談公式LINE登録者からご意見を募集し、計**35名**から回答を得ました。（※回答者の内訳グラフはP10に掲載）

回答者の内訳は、**宗教2世が74%**、**宗教3世が14%**と、2世、3世が多くを占めています。

回答者の年代は20代～60代以降までと幅広く、最も多いのは**40代（41%）**、次いで**20代、30代**がいずれも**21%**です。（非回答は除く）

回答者に関係のあった団体は、**エホバの証人**が51%と半数を占め、次に**旧統一教会**が15%、**創価学会**が12%であり、他にも**真如苑**、**大山ねずの命神示教会**、**天理教**、**まひかり**、**キリスト教プロテスタント**、**ペンテコステ派**、**単立教会**、**カトリック**と多様でした。（非回答は除く・団体名は回答者が記載された表記を使用）

回答全体でみると、今回の調査結果公表について、「**評価する**」というご意見が多かった反面、当事者の声が充分には**反映されていない**というものや、現在も**苦しみの渦中**にあるという声、**離れた後の支援の拡充**を求めるご意見、信教の自由には、親の宗教を**信仰しない/棄教する**という**選択の自由**もあり、それが周知・徹底され、**子どもの権利として保障される必要がある**という声、いわゆる**伝統宗教にも宗教2世問題は存在する**が、カルトとされる団体の2世問題しか注視されず**疎外感**を感じるという声、子どもの頃、宗教と一般社会の狭間に立たされ、一般社会側である**第三者の態度に傷ついた**という声、**異なる文化的背景や社会的価値観の時代変遷を勘案**して対応する必要性など、多様なご意見をいただきました。

次ページより、いただいたご意見を掲載します。

「宗教の信仰背景の児童虐待」 こども家庭庁の調査結果公表について—当事者の声①

幼少期にあじわった屈辱を次世代には感じるような育ちをしてほしくない。幼少期の経験は大人になっても傷となっているため行政の徹底的な調査と保護を強く勧めたい。(40代)

もう済んだ事、子供の頃の事、では済まされない一生ついて回る苦しい問題だと強く思う。生きていく上で基盤を作る大事な子供時代や二十代の若い時間を全て無駄にした事。まだ何が正しいか悪いかもわからない幼児期や10代の時期に誘導尋問のようにこれが素晴らしいと教えておきながらいざ大人になったら、『信仰は個人の自由…決して強制してない』と言い放つ無責任さ。これこそ罪だと思います。(40代)

やっとここまで来たかと感じています。私がハリマゲドンの恐怖で心を壊して小児精神科に通院していたのは50年前でした。(60代以降)

現段階での宗教2世問題の調査報告や、被害実情の当事者の声は氷山の一角にすぎないと思います。宗教2世の被害者はもっと沢山いると思いますが、過去に囚われたくない、もう、関わりたくない、など宗教2世だった事すらを忘れたと思う当事者が居ることをもっとメディアで取りあげてもらいたいです。(40代)

第三者が調査したところで、本人が受けた生きづらさ等は本当の意味で理解できるものではないと思いますが、声を出せない子供達がいるという事実が世に出ただけでも良いと思います。(50代)

宗教にのめり込まず、自分の軸を持っている人もいるけど、宗教に依存すると、子供にまで押しつけて「毒親」と同じことをしてしまうんだなと思いました。(20代)

身体がまだ痛い。(30代)

国の機関が重い腰を上げてくれたことに関してはありがたく感じる。ただ、児童のような年齢だけではなく、私のような中高年でも未だに親の新興宗教問題で苦しんでいる人はいる。この問題は両親が死ぬまで解決しないし、終わらない。そういう年代にもスポットを当ててほしい。(40代)

タブーと見ないようにされてきた宗教2世である私たちの声を、NHKが取り上げてくれたことをとても嬉しく思いました。そして、新しい犠牲者を出さない対策はもちろんのこと、未だ呪縛から解けずに苦しんでいる、放置されてきた私達2世への救済措置を求めます。いまだに社会に溶け込みづらいし、世の人と共に生き、働くことが苦手で苦しんでいます。(40代)

最近の報道で、問題として取り上げていただき、そんな時代になって良かったと思いますが、やはり心の傷は消えるものではないです。私は、組織から離れて今は幸せに暮らしていますが、駅で何事もなかったかのように宗教活動している人を見て、すごく腹が立ちます。罰せられて、組織がなくなればいいのにと願います。(40代)

自分の経験を踏まえて、子供だけでなく社会人になってからも相談窓口を設けるなどの外部による救済が必要だと常々感じています。宗教の自由による被害は社会的問題だという認識を多くの方に持って頂く機会としてこのような調査を定期的に行い少しでも解決に至ることを願っています。(30代)

親が良かれと思ってることが子の基本的人権(信仰の自由)を迫害することに繋がっているという考え方で社会で広まって欲しい。年齢に関わらず自由に入退会出来る状態にして欲しい。(20代)

ようやく虐待だと認定されてきたと感じる。(40代)

「宗教の信仰背景の児童虐待」 こども家庭庁の調査結果公表について—当事者の声②

過去の経験がトラウマとなり、蘇ります。当事者として、今現在さえ、その影響と戦っています。人の人生、その子供達の可能性を奪う罪は大きく、計り知れないものです。私は誰にも言えず苦しんできました。なので宗教が違えど、安倍さんの銃撃事件が起きた時、事件の裏に隠された深刻な問題はすぐにわかりました。親たちは洗脳されていますから、子供の立場で物事を考えることはできません。親なのに苦しんでいる子供の気持ちがわからないのです。うちもいまだにそうです。宗教に心奪われた親は洗脳されており、ある意味宗教的な価値観から、自分の子供の人生を売ることができてしまうのです。

その行為は神への最高の愛の表明なんです。罪の意識はありません。世界で宗教戦争がいつまで経っても止まらないのは、聖戦だからです。本人たちは神に受け入れていただける最高の行為だ信じていますよね。それが相手の命を奪うことになろうとも、間違った行為とは、まず思いません。それと同じです。宗教で洗脳されていますから、自分の子供をある意味で社会的に殺すことになるということに気づいていないのです。

たまたまその親のもとに生まれてきた子は救われなんでしょう。誰に助けを求めれますか？一番保護してくれるはずの親が、悪の根源なんです。私は9歳にして全ての機会を奪われたと思っています。母が信者になり、その後私の習い事、スポーツ、進学、人生のあらゆる選択肢が全て奪われました。母親のせいです。信心を強要されてきました。反発すれば、不従順、鞭を打たれてサタンの影響を受けているとされてきたからです。子供の時は信心するしか道はありませんでした。子供は誰も母から否定されたくないでしょう。是認されるため必死になります。私は従ってきました。

人生の半ば50歳を過ぎ、自分にとってはいまとなつては遅過ぎますが。一度きりの人生、戻すことができず、どうすることもできません。いまだに自分の中に宗教的な思想が影響し、根付いてそのことから苦しん

でいる自分がいることにうんざりします。生きること
も時として辛くなること、普通に生きていけない辛さ
を感じています。宗教が私に与えた影響は計り知れず、
このやりきれない気持ちは同じ体験をした2世、3世
の方しかわからないでしょう。(50代)

自分と同じような子供が、相談できる場所や逃げれ
る場所ができたらいと思う。(20代)

調査が行われたこと、不安に思っている人に寄り添
う支援ができる一步と思うと嬉しい。一方で相談でき
ていない人もまだまだいると思う。今思い返すと誰か
に相談すれば良かった、相談する受け皿ができていれ
ば知りたかったです。とはいえもし相談して、子供な
ので母親父親を失うことや仲のいい兄弟と離れ離れに
なるのではないかと、日常が壊れる怖さや不安がありま
した。今よりもっと悪い環境になるなら今の方がまし
とっていました。ですが、思春期や大人になり精神的
な被害がきて、私みたいに苦しむ人が減ってほしい
と思います。(30代)

信教の自由は、「信じない」ことも含め自由なはず
だが、宗教団体から抜け出すことのハードルが高い。
第3者機関や相談窓口を設置が至急に必要だと思いま
す。親が宗教だと、それが当たり前になって自分で気
付きにくいし、話せる相談窓口が必要だと思います。
(30代)

保護者は、選んだ宗教である。子供の人権尊厳、意
思は、脇におかれる。カルトと呼ばれる、宗教では2
世の問題がおおきく最近扱われるが、カルトと呼ばれ
ない教団でも、問題は、起きてるのに、そこに触れる
と、カルト被害2世の救済団体、他宗教の方からは、
問題視されない。逆に疎外感さえ感じる。

(年代不明)

「宗教の信仰背景の児童虐待」 こども家庭庁の調査結果公表について—当事者の声③

大変感謝しています。まさにタイムリーな内容でした。長年感じてきた宗教団体への違和感が言語化されて感謝しています。宗教団体が霊感商法を使い高額な寄付を集めたり、信者を脅迫して日常的に恐怖を味合わせたり、ヤクザを使い集団ストーカーをしている事実をさらに調査してほしいです。最近では、さらに悪質になり、お金を巻き上げる為に、職場に乱入してやる、精神病院に送り込んでやると身内を使って宗教団体職員が指示しているので、宗教団体のしている悪事をしっかり国が監視してほしいです。国にはもっと宗教団体を押さえ込んでほしいし、悪質な宗教団体職員や宗教勧誘する人間を逮捕できるような法整備をお願いしたい。

宗教団体が無法地帯になっているので、宗教団体を解体してほしい。宗教が犯罪の温床になっているのは許せないです。各宗教団体の悪質な手口を調査してほしいし、悪質な宗教団体が家族親戚を破滅させている訴えができる通報窓口がほしいし、それが一件でもあれば被害届として文化庁に受理され、簡単に宗教法人解体できる法的な仕組みがほしいです。さらに高額献金が速やかに返金されるよう、宗教団体の不動産差押えがもっと短期間でできるようにお願いしたいです。

(50代)

見えにくいし扱いにくいテーマなので、国レベルが扱ってくれて良かった。

(40代)

統一教会で私が被害にあったと感じる(又は問題があると感じる)点は主に2つ。

1つは結婚の自由がない所。今は昔よりだいぶ自由になったとはいえ、やはり血統を守るという観点から、2世や3世(教会の家庭で生まれた子達)が一般人と恋愛したり結婚したりする事を家庭で制限されてしまう。昔の様に嫌な相手とでも無理矢理結婚みたいな事はないにしても、自由な恋愛や結婚は許されない。これは、

人生において、かなり大きな部分と言えると思う。

2つめは、シャーマニズム的な教えで、何でも悪霊のせいにしてお金を多額に殆ど無制限に取ること。統一教会の教えを信仰して行くと、最終的には霊界がこの世を支配してる的な考えになり、見えず不確かな霊界を解放する為に、一生懸命稼いではせつせとお金を教会に持っていくようになる。強制ではないと教会側は主張するかもしれないが、家族はたまったものではない。何を言っても聞く耳を持たず、教会の話しか受け入れなくなり、子供にもその考えを強要する。そして、子供がそれを受け入れなければ家族はバラバラになる。家族の為だと教会に留まる2世も少なくない。統一教会の場合、ほぼ無制限に搾取する。

統一教会では、この結婚問題と、悪霊トークによる無制限的な金銭搾取の2つが、一番大きな問題だと言えると思う。何でも悪霊のせいにするので、問題の本質から遠ざかり、根本的な解決をするのではなく、ただお金を稼いで教会に持っていくようになる。また、思考回路も問題の本質を見つめるより除霊や先祖解怨をすれば全て解決出来る的な考えになって行き、単純化して自分で考える事が出来なくなっていく。統一教会ではあまりにも犠牲を強要し美化する為、1世達の末路は殆どが悲惨である。それを2世が負担する為、教会を離れた2世達も年老いた親の面倒の為に、また教会と向き合わなければいけない状況がくる。これもまた大きな被害の1つではないだろうか。殆どの1世は貯金も年金もなく、病気になって子供が世話を余儀なくされている。

宗教とは、人々の心を豊かにして、人間がどう生きなければいけないかを解き、幸せな人生を送る為の教えを示すべきなのに、統一教会では、信者に使命と責任分担を与えて政治に近づき、騙すようにして世の中を塗り替えようと目論んでいる。こんな宗教団体は絶対に日本で法人格を与えてはならないと思う。

(40代)

「宗教の信仰背景の児童虐待」 こども家庭庁の調査結果公表について—当事者の声④

私は、「宗教二世」に関連する問題についてこれまで考えてきたことで、この報告書を読み改めて感じたことがあります。一つは、もっと「文化と文化」の問題である背景を深掘していく必要があるということと、もう一つは子供の選択肢の主権がどこにあるのかということの二つです。この報告書の中で、「虐待」に当たるかどうか…という点で、外国人家庭との文化の違いがフォーカスされる場面が度々見られました。例えばある国では体罰を行うことが一般で、それを日本で家庭を築いた後も持ち込んでしまう…などといった事例です。

「宗教虐待」と呼ばれる状況が、一般的に日本で主流の環境で生活する方々にとって、「私達とは異質な状況で起きていること」として、「宗教が関係しているような虐待」と、「異文化が関係しているような虐待」と、「その他の異質性（陰謀論）が関係しているような虐待」とが、肩を並べて列挙されていることにつながっているのではないのでしょうか。最近幾つかの論文を読む中で、「文化的虐待」という言葉と出会いました。これは児童の健康や生命に影響をきたすような行為でも、ある文化圏で許容されてきた特定の行為が、他の文化圏から見れば問題行為とされるような事例です。

例えば、私はエホバの証人の二世として子供時代を送ってきましたが、極端な話、もし日本という国の9割をエホバの証人の信者で占められていたら…。例えば今現在この国で「宗教虐待」としてよく挙げられるむち打ちや輸血拒否や定期的な集会の参加強制等といった行為も、きっと「宗教虐待」としては認識されなかったんだろうと思います。

「鞭打ち」についても、かつての日本では世の中に溢れていた身体的虐待も、現代では大きく問題視されるようになりました。そうすることで「身体罰」と「異なる宗教性」が結び付けられ、改めてその異質性が社会の中で問われるようになってきたのだと思います。

す。

私たちは少数派であるからこそ、外部から見た異質性と比較され、はじめて「私たち（彼ら）は虐待的行為を受けてきた（あるいはそのリスクに晒されていた）」と気づく（気づかれる）ように至ったのだと思います。それは日本という社会で現在顕在化されていないことも、数十年後には虐待行為であったと改めて問題化されるということも表しているのだと思います。例えば宗教が伴っていないくても、インフルエンサーや、政治活動や、マルチ商法や、ワクチン忌避等に伴う医療ネグレクト等……、そういった「児童虐待」と紐づけられうる枠組みは非常に流動的に変化し拡大していくということを、この報告書は「宗教二世問題」を通して私達に示しているように感じます。

この報告書の中で、宗教側との対話の必要性が強調されていました。例えば先述の文化的虐待の議論においても、エスノセントリズムや文化相対主義の対比からどのような態度で接するのが望ましいのかというのは頻回になされてきています。主流社会に一方的に統一させるのか、それとも文化（宗教）の違いだからと容認・放置するのか……その双方も望ましくなく、可能な限り能動的に宗教側への働きかけ・対話が望まれていくように思います。もっと強制的な措置を望む声もありますが、個人信仰等、形をとらない信仰が想像以上にあったり…私も当事者として、世間からの強硬的な姿勢や態度は、むしろ自分達を社会から隔離・断絶させかねない事は懸念しており、この報告書で医療機関や児童相談所や教育関連施設で示されていた姿勢についてはとてもありがたく・頼もしく感じました。

一方でもちろん、例えば輸血拒否などのケースのように、強制措置が必要となる場面も多く見られるように思います。主要なところでは2008年に日本輸血・細胞治療学会等による合同委員会が作成したガイドラインがありますが、今回の報告書を見ると（時期がわからないとはいえ）いざという場面で難しい判断を強

「宗教の信仰背景の児童虐待」 こども家庭庁の調査結果公表について—当事者の声⑤

いられる当事者・医療従事者も未だ多くいることがわかりました。また、例えば家族や宗教から距離を取りたい人たちのための戸籍・住所等の閲覧制限等もまだ複雑な手続きがあり、そうした当事者のニーズに沿って、その選択肢を尊重するための場面においては時として強い措置が求められているようにも思います。こうした際の判断の根拠について、事例を検討し今後も議論が進められることを願います。以下、差別的な考えに利用されかねないため慎重に述べなければなりませんが、重要なことは、日本という社会における主流な慣習（文化）がどういったものなのか、そして、それと異なる文化的背景（信仰・人種を含む）とどのようなところが違うのか、双方を『総括』したうえで、適切な形で「日本という社会で虐待につながりうる行為」と「それによるリスク」の共有を広く、大きく、強く周知していく事だと思います。こうしたことを述べるのは、恐らくエホバの証人間でも、先述のガイドライン等の存在について把握していない人が多いのではと感じているからです。これは宗教側の問題であるとも思いますが、しっかり「行為⇒結果」のリスクがあることを、社会側からもはっきりと周知していかなければなりません。その上で、当事者が選択肢をとりやすくする環境を整備していくことが重要であると思います。こうした基盤を作っていくことは、将来的に宗教二世だけでなく、より広いニーズの方の選択肢にも貢献されるのではないのでしょうか。「選択肢の保証」というのは非常に大きく必要な概念であると思います。

20年前、国連開発計画が発行した「人間開発報告書2004」では、少数派宗教も含めた信仰の自由の尊重と並び、宗教二世の権利についても記されました。そこでは、宗教に属する人には自分の宗教について批判的に考える事ができる権利、そして改宗・棄教する権利が、個人の選択肢として保障されるべきということが書かれています。個人が自分の選択肢を自分で決められる権利。信仰する人は信仰する権利が保障され、

信仰を持たない人も信仰しないことが保障され、個人が暴力や暴言により選択が否定されない権利。これをもっとたくさんの当事者の方とその周囲の人々に知ってほしいと思います。

私は現在はスリランカにおり、なかなか関わりが持てていないですが、宗教二世の方の支援団体に属する中で、様々な方の経験に触れる機会がありました。報告書でも、例えば教育機関に関する部分で小学校⇒中学校⇒高校と報告件数が異なるように、人生のライフスタイルで、宗教二世がハードルと衝突しなければならない場面の頻度や内容は変化していくように思います（それだけに小・中・高が一緒に統計されているのが非常にもったいなく感じましたが…）。大人になってからも、例えば学歴や職歴により就職や人間関係等で壁とぶつかったり、結婚に伴う反対だったり、人生の喪失感であったり、人によって、様々な場面で大きなハードルを飛び越えなければなりません。宗教に属する人でも、それを辞めた人でも、その時々で選択肢をとりやすい社会になってほしいと思います。

最後に関係ない話かもしれませんが、私自身は、相手が「カルト」だからといって、その人たちに何でもしていいとは思いません。例えば暴言を吐きかけたり、笑いものにしたり、動画を拡散したり……そこにいるのも様々な事情でそこにいる人だからです。私は子供の頃、強い反対をする親戚から家族そろって罵声？強い言葉を浴びさせられたり、墓参りで線香をあげられないからと拒否する私に白い目で高圧的に睨みつけられたことがあります。今でも忘れない、思い出すと動悸がします。今は私も宗教とは違う道に進みましたが、もしその人たちが「ほら、俺達が正しかっただろ」等と正当化させるような様なことを言ってきたら、「貴様らも同じだ」って言い返してやりたい。子供の私を締め付けたのは、貴様らも同じだ。ただいさせてくれるだけで良かったのに。あんたらは私の家族は宗教で壊れたと思っているかもしれないが、あんたらも同罪

「宗教の信仰背景の児童虐待」 こども家庭庁の調査結果公表について—当事者の声⑥

なんだ。たぶん、あまり宗教二世のコミュニティでは同意は得られない叫びです（笑）

私は、この文章の中で、可能な限り宗教側も辞めた側も同列になるように書くように努めました。支援に係る中で、特に最近、宗教二世でも、非常に考慮すべき分断が多く発生しているように思うからです。それこそ、敵と味方に分けるような……。そして私自身もこれまでちゃんとコンプライアンスに沿った支援ができていたのだろうかと不安になることもありますし、反省もあります。省察の視点ももちながら、今後も関わらせていただければと考えています。

※以下の文献を参考にしています。ご参考までに
[国連開発計画（2004）「人間開発報告書2004「この多様な世界で文化の自由を」](#)

(<https://www.undp.org/ja/japan/publications/renjiankaifabaogaoshu2004konoduoyangnashijietewenhuanozhiyouwo>) 2024/5/31閲覧可能
宗教的輸血拒否に関する合同委員会（2008）「宗教的輸血拒否に関するガイドライン」

上野加代子. (2020). 多文化社会と児童虐待問題. 家族関係学, 39, 5-13.

見原礼子. (2018). 子ども虐待問題における文化相対主義的アプローチをめぐる一考察—ジル・E・コービンの議論を手がかりに—. 多文化社会研究, 4, 233-249. (30代)

調査結果を宗教団体、宗教二世の年代、地域に細分化すると、また違う側面が出てくるような気がします。二世の年代によって、各団体の求めているモノが違う気がします。宗教二世に対しての学校の対応についてですが、すぐ動けるような学校はまだ少ないのでは？と考えます。疑問に思っても、親が主張している内は何もできない、宗教二世に対しての知識が学校に乏しいように感じます。子どもは自分の家庭が普通、基準、と考えてしまうので、近くにいる第三者の大人がきちんと話を聞いて欲しいと思います。 (30代)

宗教に起因する児童虐待は、公的機関による介入をするべきかの判断が難しい。当事者である児童が虐待を受けている自覚がなかったり、虐待を受けていることが分かりにくかったりするからだ。その苦悩がアンケートから伝わってきた。今回の調査で度々話題に上がった「宗教の信仰等に関係する児童虐待等への対応に関するQ & A」が介入の判断の助けになり、より多くの児童の生活が楽になると嬉しい。

自分が小学生、中学生だった時のことを書かせてほしい。私は当時神への信仰はなかったが、宗教がいう教え、予言は正しいと思っていた。だから、虐待的な宗教教育を受けることは当然だしむしろ喜ばしいことだと思っていた。ただ、振り返ってみるとそのせいで精神的に疲弊していたし、青春を過ごすことは出来なかった。普通の学生のように過ごせていたらどんなに楽しかったらうかと今となっては思う。

当時の私を今回の調査で得られた考察を元に救えるかということ、難しいと感じた。当時の自分は望んでいたことだからだ。自分が自分の状況を理解できるようになったのは大人になってからだった。それほどまでに、幼少期からの教育の影響は根深い。

それでも、私の人生における話で恐縮だが、児童虐待を防ぐ可能性があったとしたら、学校における介入しかなかったらう。友人が宗教関係者しかいなかった当時において、学校は唯一未信者の人が多数になる環境だったからだ。自分と他者の違いを強く感じる場であるので、そこで宗教について相談できる場があれば何かが起きたかもしれない。

なんであれ宗教による虐待に対する社会の理解が深まり、対応が進んでいくのは嬉しい。身体的で明白な人権侵害だけでなく、精神の自由や信仰の自由などの見えない部分の人権侵害が防げるようになればもっと良いと思う。 (20代)

特に思うことはなし。 (20代)

「宗教の信仰背景の児童虐待」 こども家庭庁の調査結果公表について—当事者の声⑦

十数年ほど前に22～3歳まで工ホバの証人に所属し、断絶した者です。当時を振り返りながら感じることは、現役で所属している間は保護者・子供とも虐待をしている、または受けているという自覚がない場合がほとんどかと思います。

前提として、教団が子供に対して教えることは

- ・親に従順であること
- ・親の言うことは工ホバ神の言葉なので、それに逆らうことはサタンである

親に対しては、

- ・懲らしめの鞭を控えることは子供を愛していない証である
- ・親子は主人と奴隷の関係と似た絶対服従の関係であると教えます。

そして、子供は親に愛されたいという欲求を持っているので、親を喜ばせようとするのは当然の事です。よって、違和感を感じつつも親を悲しませないために宗教活動にも参加したり、思ってもいないのに自分の口から信仰を明言するような行動に出ることもあります。真実なのか強制されたものかを判断することは難しかったと思います。これを踏まえ、宗教虐待とは無縁の第三者にご理解願うのはとても難しいと思っています。

学校ならば、工ホバの証人の場合年度初めに担任に、自分は工ホバの証人を信仰しているので

- ・校歌が歌えない
- ・武道の授業は見学する
- ・季節のイベントには参加しない
- ・選挙に参加しない
- ・輸血ができない旨のカードを持っている

事などを伝えることを推奨されていました。ですので、担任を受け持つ方なら、自分のクラスに工ホバの証人の生徒がいるかいないかくらいの認知度だったのではないのでしょうか。調査結果にも書かれているように、保護者の信仰する宗教の内容把握までできる状況はな

かったはずです。

少なくとも一連の報道で、工ホバの証人が人権を軽視している危険な宗教の一つであることが周知され始めていますから、脱会した方にも可能な限り調査をしながらデータを積み上げていって頂きたいと思います。

(30代)

信教の自由や親の意思が尊重されるばかりに子供の選択の自由がないがしろにされていて、それを今まで問題視されてなかったのが問題だと思った。現在でも宗教虐待による後遺症で苦しんでいる人は恐らくこの報告書の倍はいるであろうと思う。この問題を今まで見て見ぬふりをしてきた社会や政府の責任は重大であり法を超えた生活・経済等の支援を恒久的に行っていくべきであると強く感じた。

(20代)

輸血拒否や体罰に関して正しい調査がされていると感じた。特に輸血拒否に関係する転院や医療を受けれないと言った事はまだまだあると思うので深く調査してほしい。

(40代)

失った若い頃は2度と戻ってこない。宗教2世に関してこの言葉ほどの確なものはない。

(40代)

当事者の声がしっかりと聞き取られていない。

(50代)

ほんの少しだけ進歩した。しかし、大きな宗教団体にも虐待はある。幼児洗礼です。他にも色々。

毒親を許すことはないでしょう。特別養子縁組に対して、緩和してほしい。今は、親の精神的虐待と宗教虐待と色々あり、自殺未遂し閉鎖病棟で入院しています。今年に裁判をするつもりです。毒親と宗教団体と記事にして下さい。大胆に。

(20代)

世間に広めてほしい。

(40代)

「宗教の信仰背景の児童虐待」 こども家庭庁の調査結果公表について—当事者の声⑧

- ・当事者として読むのが非常に辛かった。
- ・調査が行われたことは大変に心強いが、逆に今までそういうことが行われなかったのだろうかと感じ、それがショックだった。
- ・児童の支援をする人たちも大変な苦労がある。それがわかった。児童を守ることの困難さが浮き彫りになりますます不安になった。
- ・普通の虐待とは違い、相手は団体。一人ではない。権力もある。団体のあり方・個々の信者によって問題が様々だ。どうやってまとめるのか。
- ・宗教という名がつくだけで虐待が正当化されてしまう怖さを感じた。実際に被害が出ていても対応できない、対応に苦慮するケースが思っていたよりもたくさんあった。
- ・調査だから当たり前なのかもしれないが、どこか他人事というかんじがした。
- ・本当にこれは宗教の問題なのだろうか。深刻な被害が出ている場面でさえも、対応する側が“バカ正直”に相手の信仰を聞く必要があるのだろうか。宗教を特別扱いしなくていい場面を設定する必要があるのでは。
- ・宗教団体の側はまとまりがあるが、対応する側はあまり連携がなく苦労しているようだ。対応する側の連携とスタンスを明らかにする必要があると思う。

※※※

これは本当に深刻な問題のようだ。当事者だけでなく、関わった人間皆苦労している。自分は本当に大変な経験をしたのだと改めて思った。(50代)

子供の頃には嫌々宗教の集まりに参加していました。母親が信者で父親含む他親族は皆反対していました。行きたくありませんでしたが、母が悲しむだろうと参加していました。ムチもありました。今も生き辛いです。今、犠牲になっている小さな2世もいるはずです。助けてあげてほしいと思いました。(40代)

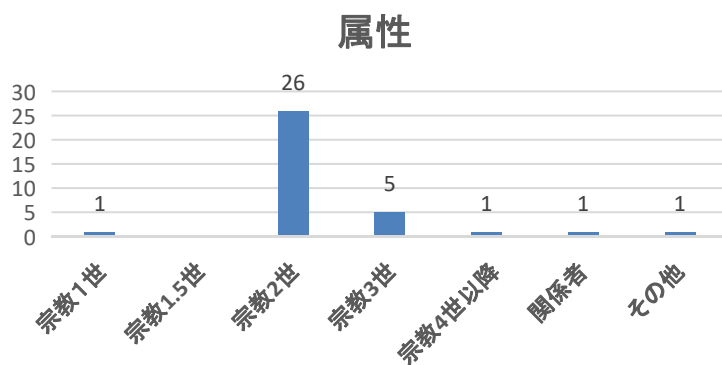
ガイドラインそのものが特定の宗教を狙いうちしたものであり、違和感を覚えていたが、調査自体は当事者団体にありがちな主観的誘導がないため信頼でき、示唆に富む回答ばかりであった。

ただ、当事者のサンプル数が圧倒的に少なく、マスコミやSNS等で既出の発言内容から個人の特定ができるものが散見され、サンプルとして不適切であると感じた。(40代)

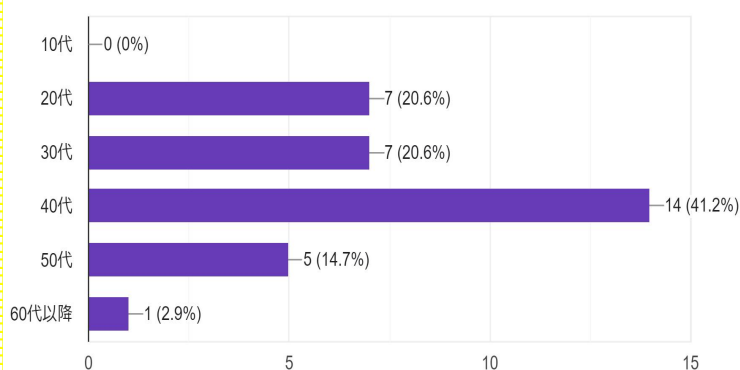
※今回の当事者の声は、2024/5/18～5/31の期間に、陽だまりの在籍スタッフおよび陽だまり公式LINE登録者を対象に、匿名・任意でアンケートを実施し、計35名から得られた回答です。

回答者の内訳グラフは以下の通りです。

＜回答者の属性：宗教○世＞



＜回答者の現在の年代＞（非回答は除く）



宗教2世 交流の場 ②

【宗教2世バー】

主に「宗教2世」を対象にした交流は、陽だまり以外でも、各地でリアル交流のオフ会、またZoomなどを使用したオンラインでの交流などが行われています。

そのような宗教2世の交流イベントをご紹介しますシリーズ「宗教2世 交流の場」

ー 今号は、**東京都内**にて**松の木さん**と**ぴよさん**が**共同開催**する「宗教2世バー」をご紹介します！

「宗教2世バー」というテーマのイベントバーは、複数開催されています。各主催者が随時的に会場を借りて実施しており、このテーマの統括者がいるわけではありません。

店舗により、常駐の店長がドリンクを提供するところもあれば、主催者が一日店長としてドリンクを提供するところもあります。

今回は**松の木さん（元エホバの証人2世）**と**ぴよさん（元旧統一教会2世）**が**共同開催**する「宗教2世バー」についてインタビュー！

東京都内のイベントバーにて、**年4回程度**随時開催しているこの宗教2世バーは、**予約不要**、主催者が飲食物を提供するスタイルで、**予算は1,000円～**（チャージ料+ワンドリンク）、平均2,500円前後、アルコール、ソフトドリンク、軽食を用意しています。

開催時間は**17:00～23:00**ですが、**昼間帯（14:00～17:00）に女性・学生限定枠**がある時も！（詳細はXの告知を参照）

開店時間中、都合の良い時間に店に寄ると、空いている席に誘導してくれるので、ワンドリンクを注文（必要なら軽食注文）し、客同

士で会話を楽しむことができます。開店から閉店まで長居される方も多く、バーには、入れ替わり**10～30名程度**の方が集います。

主催者自身、様々な2世と出会い、話をしたことで、**同じように悩み苦しんだ人たちがいたこと**を知り、癒やされ、今度は自分がそのような交流の場を作りたいと思い、開催するようになったそうです。

話しても話さなくてもよい**安心感のある場所**を目指しているとのこと、**ひとりでもふらっと気軽に来店**しやすい様子。

異なる教団出身の2世の共同開催ということもあってか、**様々な団体出身の2世**が集いやすいようで、連れ戻し・勧誘目的でなければ、宗教2世はもちろん、話を聞いてみたい一般の方など、どなたでも歓迎とのこと。

たとえ**スタンスが異なっている**、複雑な胸の内は2世同士理解しやすかったり、あるある話で盛り上がるそうで、癒し、励まし、勇気、友達など、何かしら得てもらえればと、毎回心をこめて準備されています。

次回は**8月10日開催予定**！詳細は以下を参照し、告知をご確認ください。

今後の「宗教2世バー」の開催予定については、Xにて、松の木さん（[@Makkii1234](#)）、ぴよさん（[@piyopiyo2s](#)）をフォローし、告知をご確認ください。

陽だまり関西 リアルスペース “こっとな”

申込最終〆切：6/21（金）22時
お申込みはお早めに！



“こっとな”とは奈良の方言で、私の家

本を読んだり、会話を交わしたり、飲食を楽しんだり、子どもと遊んだり
童心にかえっておもちゃで遊んだり、メッセージや絵を描いたり…
それぞれが思い思いに過ごしながらゆるーく繋がりたい。

ブックコーナー

（宗教2世関連本、回復に役立った一般書籍多数）

アナログ交流掲示板

（壁一面の黒板にメッセージや絵を描いてね）

ドリンクコーナー

キッズコーナー（おもちゃ・絵本、黒板）

授乳室、ミルク調乳グッズあり

オムツ交換可（使用済みオムツ廃棄可）

ベビーカー入店可

小さなお子様連れ歓迎！



Time Schedule

13:00 開場

14:00 自己紹介交流会（希望者のみ）
自己紹介シートを利用した交流タイム

17:00 閉場



日時：2024年6月23日（日）13:00～17:00

事前申込制、時間内入退出自由

場所：奈良県近鉄大和西大寺駅近くの会場

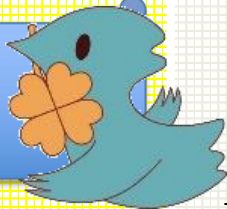
会場の詳細は、[こちらのフォーム](#)よりご入手ください。（QRコード）

参加費：500円（現金払いのみ、高校生以下無料）

ドリンクフリー、菓子付き

（飲食物持ち込み自由、シェア歓迎！）





昨年末に開設の陽だまり相談室（in神奈川）で初となるオフ会は4/28(日)に実施いたしました！

今回は、現地リアル参加とオンライン参加（Zoom）によるハイブリッド形式で開催し、現地参加の方も希望者は途中交代でZoomに顔出しをしながら楽しいひと時を過ごせました。ご参加の皆様ありがとうございます！

次回の相談室オフ会は、6月開催予定と予告しておりましたが、都合により**7月に延期**となりました。日程等が決定すれば、[陽だまり公式X](#)および[公式相談LINE](#)にて告知いたしますのでご確認ください。

現在、次号以降のニュースレターに掲載する当事者の声を募集しています。

<内容>

宗教2世としてどのようなことを感じたり、どのような支援が欲しかったか、またはどのような支援に救われたか

文字数：250字～270字前後

<要項>

- ・採用、不採用、何月号に掲載となるかは未定で基本的に通知はいたしません。
- ・希望のハンドルネームを記載（匿名可能）
- ・所属団体名の付記の有無も問いません。
- ・下記の公式メールまたはX（Twitter）のDMに「当事者の声応募」としてお送りください。

サポーター募集

陽だまりは、応援してくださる皆様からのご寄付により事業を展開しています。

振込先：みずほ銀行 厚木支店（758）

普通 3098717

**シャ) シュウキヨウニセイシエン
センターヒダマリ**

※振込人名義の冒頭に「キフ」を付けてください。

また一緒に活動してくれる仲間（会員）も募集しています。入会をご検討される場合は、下記の公式メールよりご連絡ください。

※会員には定款により一定の要件があります。

編集後記

今号記事の、こども家庭庁による「信仰背景の児童虐待」の調査結果公表について、当事者のご意見をフォームにて募集したところ、限られた期間にもかかわらず、多数のご協力を得られました。この場を借りて感謝申し上げます。

当事者の方々から様々な声をいただき、綴られた言葉の一つ一つに、その方自身の生きてきた過程と込められた強い想いを感じました。スタンスの違いはあれ、「保護者の宗教の信仰、また一般社会との軋轢に苦しんできた経験は、これ以上他者、特に次世代に味わせたくない。」という願いを感じるものが多く、だからこそ、こんなにも多くの「宗教2世」が、今、自分の過去を振り返り、語るのだと感じます。（担当 S）

【一般社団法人 宗教2世支援センター陽だまり】

☐TEL 050-3046-6745 ☐E-mail <mailto:info@nisei-hidamari.org>

☐HP <https://nisei-hidamari.org/> ☐Facebook <https://www.facebook.com/niseihidamari>

☐X (Twitter) <https://twitter.com/niseihidamari> ☐Youtube <https://www.youtube.com/@hidamari-2sei>

